2025年6月25日

2024年度学校関係者評価委員会　評価結果報告

日産栃木自動車大学校　学校関係者評価委員会

１．開催日時

2025年６月5日（木）　13：30～15：30

２．開催場所

日産栃木自動車大学校　会議室

３．出席者

（評価委員）１、委員長（業界団体･卒業生代表）青柳　洋平様　（栃木県自動車整備振興会　教育技術部部長　/一級自動車工学科 第1期生）
２．委員（地域団体代表）　星野　和弘様 (上三川町　総務課長）
３．委員（企業･卒業生代表）星 章夫様　（栃木日産自動車販売㈱営業本部　執行役員　/自動車整備科　第４期生）
４．委員（企業代表）水越　喜之様　（日産ﾌﾟﾘﾝｽ栃木販売（株）営業本部　次長）

（学校事務局）　中村光之(校長)、高橋 真（教頭）、羽井野昌能（学務部 部長代理／事務局窓口）、神林 宣（教育部 課長）、
渡辺 禎（教務部 課長）、川上宏美（学務部 ）

４．議題

１）校長挨拶
２）メンバー紹介（評価委員、学校事務局）
３）2024年度の活動振り返り
４）意見交換

５．論議

・項目別評価と主な意見、及び　それに対する学校の受止め

認否	基準	項目	内　　容
承認	１．教育理念・目標	主な課題	・学生の多様化（日本語能力差を抱える留学生の増加。全体の学力差の拡大。学習障害等育成に課題を抱える学生の増加。等）への対応。（具体的には教育活動の中で意見交換）
		主な意見	特になし
		意見の受止	―
承認	２．学校運営	主な課題	・FY24-26中期計画に沿って、活動を進めていくが、後述する財務上の課題に向けての施策がまだ、具体化しきれていない。
		主な意見	特になし
		意見の受止	―
承認	３．教育活動	主な課題	・多様化する学生に向けて、夫々に見合った策を模索すると同時に、日産校ならではの教育の充実を図る。 ①増加する留学生に向けての日本語学校とタイアップした教育の充実。 ②授業態度を指標化し、精神的な問題を抱える学生等を洗い出すと同時に、教員には指導に必要な研修を実施。 ③日産校の特徴として、電動化技術の授業を強化。
		主な意見	・昔から、学習に障害を抱える学生はいたのだとは思うが、社会に出て自覚することもあり、学校の中で、一定の対応ができるのであれば、良い事だと考える（水越、青柳） ・入社すれば新型車の整備が多いが、新技術の知識が乏しい人が多い。是非、学校で強化してもらいたい（水越）
		意見の受止	・学習上の障害を抱える学生さんには、自覚してもらうことが大事だと考える。適宜カウンセラーも交え対応していく。 ・新技術授業はあるが、十分体感できているかというとまだ不十分。今後、課題として対応を検討していく。
承認	４．学修成果	主な課題	・23年度の国家試験は、一級は全員合格できたが、二級で留学生が1名不合格となった。留学生は日本語のハードルがあり、引き続き、全員合格に向け、対策を講じていく。また、二級不合格者についても、秋の再受験に向け、学校でもフォローをしていく。
		主な意見	・二級は整備士として働く為の基本的資格であり、学校のフォローを受験申請の所からお願いしたい（青柳）
		意見の受止	・二級不合格者の再受験フォローについては、ご指摘部分を含め万全を期したい。

認否	基準	項目	内　　容
承認	5．学生支援	主な課題	留学生が急増してるが学費が滞る学生が多く、苦慮している。日本人とは違い、日本学生支援機構の奨学金もなく、日本人同様の入学前の段階から奨学金の設定はできないのか？
		主な意見	・留学生も入学前の奨学金にチャレンジしても可。ただし、合否は別で保護者が在留していないと不安（水越） ・留学生の私学金は信用保証がないと不安がつきまとう（星） ・奨学金を得た留学生が退学した時は学校で返金する等の対応も必要かもしれない（青柳）
		意見の受止	・留学生の入学前の奨学金に関しては、販社様側のリスクも大きく、就職内定者向けの奨学金の拡充を目指した方が 多くの販社様に受けいられそう。
承認	6．教育環境	主な課題	■25年4月から国家2級コースが新課程に移行。（２４年から５校で準備を進めてきた） 各分野、新しい教科書の流れに準じて、カリキュラムを構成している。２５年度の１年から授業開始。 ２６年４月の一級の教科書発行に併せ、一級のカリキュラムに着手する。 登録試験日程は従来より２週早くなることもあり、カリキュラムも前倒しにしている。 ■学校教育法の改定により、現在の時間制に加え、単位制での管理ができるようにすることが必要になる。
		主な意見	特になし
		意見の受止	令和９年３月登録試験の情報が無いため、情報提供を依頼。（設問の比率等、概要） →A: 青柳：現時点での情報はない。→渡辺　今後情報があれば是非共有していただきたい。
承認	7．学生募集・受入	主な課題	25年4月入学は目標１７０名に対し、２１５名（日本人９０名、留学生１２５名）と達成。 26年4月入学の目標は１９５名（日本人８５名、留学生１１０名）出足日本人は不調。 日本人は国家1級コースへの誘因を強化。留学生は優秀な学生を誘因、選抜（奨学金が欲しい）。 学校経営を考えると、当面２００名の学生募集は必須。日本人学生数が伸びない以上、留学生の育成は必須か？ ＜依頼事項＞
		主な意見	・中学生イベントに関しては上三川町の教育委員会につなぐ（星野） ・学校への出向（教員）は自社の戦力との兼ね合いが気になるが、検討していく（星） ・整備振興会でも子供整備士などのイベントもあるので、協力をお願いしたい（青柳）
		意見の受止	・日本人減少対策の一環として、地元の自治体や団体と協力し、小・中学生世代からPRを行いたい。 ・出向者に関しては販社様の状況をみながら、協力してもらいたい。
承認	8．財務	主な課題	日産学園としては、入学生数の減少から、収益の悪化が続いており、その反転が最大の課題。 栃木校はこの数年の募集目標の達成に加え、更に一段の増員策を建てており、日産学園他校も、そうした増員策を検討中（具体的な対策については、学生募集のところで説明）
		主な意見	収益の悪化が継続する事は大きな問題だが、学校には公的な補助等は無いのか（星）
		意見の受止	・残念ながら、大学のような大きな公的補助は栃木の専門学校には無く、基本自助の世界。 ただ、近年、環境改善の分野に限られるが、日産自動車が設備投資の一部を肩代わりしてくれており、厳しい財務状況の中でも、学校の魅力度の維持向上が出来ている。
承認	9．法令等の遵守	主な課題	個人情報の保護のため、データのセキュリティ管理向上等、進めてきた。まだ、その運用が完全とはいえないため、更に運用面での整備を行っていく。
		主な意見	特になし
		意見の受止	―
承認	10．社会貢献	主な課題	特になし
		主な意見	特になし
		意見の受止	―
承認	11．国際交流	主な課題	特になし
		主な意見	特になし
		意見の受止	―